

Bridges

【テオ君、母国ブラジルへ戻る】

JAC高校交換留学生として本校で学びを共にしていたテオ君が6月上旬に母国ブラジルへ帰りました。彼にとってこの留学はどんな経験になったのでしょうか。感想を寄せてもらいました。

「2016年8月4日に日本に到着しました。はじめの2週間は東京でホームステイをさせていただき、その後仙台に来ました。東京のホストファミリーの方々も、仙台のホストファミリーの方々もとても忙しいなか、よく面倒をみていただいたのでとても感謝しています。ブラジルでは男子校というものがないので最初はとても戸惑いました。クラスはF組でした。いろいろな人と友だちになりました。バスケット部、サッカー部、ラグビー部、柔道部の部活動に特別に参加させてもらいました。12月にオーストラリアの留学生ハリーくんとも親友になりました。いろいろな場所に初めて連れて行ってもらいました。神社・公園・レストラン・博物館・カラオケ。たくさんの人と友だちになりました。学院に来た当初の不安はだんだんなくなっていきました。留学はチャレンジです。挑戦です。自分自身を見つめ直すときにとても役に立ちます。学院での留学生活は自分を大きく成長させる助けとなりました。この経験は決して忘れません。」

【短期留学生島田君の感想】

ルイジアナ州バトンルーージュにあるEpiscopal High School of Baton Rougeから本校へ短期留学生として、島田君が来てくれました。約1ヶ月間という非常に短い期間ではありましたが、彼にとって学院生活はどのようなものだったのでしょうか。

「私は約4週間の間、東北学院中学校の方々と過ごさせていただきました。みなさんからいろいろなことを学ばせてもらった思い出は大切にしていかなければならないと感じました。

最初の2週間はとても緊張していて、みなさんとうまく話すことができませんでした。想像していた以上に優しくしていただいたので、とてもうれしく感じました。3年A組のみなさんだけでなく、他のクラスの方も積極的に挨拶をしてくれました。普段仲良くしている友達ではないにも関わらず、声をかけていただいたので、そういった姿勢は見習いたいなと思いました。

とても短い期間だったのですが、まだわからない部分がありますが、この東北学院で学んだことを将来に生かせたらいいなと思いました。それから、東北学院中学校の先生方や生徒のみなさんのように充実した時間を、アメリカへ戻って送りたいと思いました。」

【第34回海外研修出発間近】

第34回海外研修へ18名の本校生がまもなく出発します。充実した実りのある研修、体験をしてくれることを期待しています。また無事に帰国した後は、この貴重な体験を活かして、いっそう活躍してほしいと願っております。

次回参加者については10月の奨学会の頃に募集を開始致します。詳細については、学校HP等をご覧ください。

《英語TRIVIA》

“Number”のスペルにはどこにも“o”がないのに、なぜ“No”と略されるの？

Numberとは、Numeroというラテン語から来ています。つまり、略されたNoはNumeroの頭文字のNと末尾のoを組合せたもので表されているのです。

日本においてはNo.と表記され、「ナンバー」と読まれています。国や地域によって標記に違いがあり、例えばNoのあとにピリオドを置かないケースや、Noのoを上付き文字として書くケース、小文字で書くもの、oの下にアンダーバーを引くものなど、さまざまです。ちなみに、番号記号の#は番号を表す数字の前に置かれる記号ですが、読み方は「シャープ」ではなく、英語ではhashとつづり、「ハッシュ」を読みます。